岐阜女子大学大学院

文化創造学研究科　通信教育課程

NEW

文化創造学専攻　英語文化研究分野

令和８年 10 月 英語文化研究分野の通信教育課程を新規開設

令和８年 10 月より、通信教育課程に「英語文化研究分野」を新たに開設いたします。
本分野では、英語学・英語圏文学・英語コミュニケーション学を柱として、英語文化全般について専門的に学びます。
英語学では、英語という言語の構造や、その歴史的変遷、さらに社会と言語との関わりについて探究します。英語圏文学では、イギリス文学・アメリカ文学に加え、英語で書かれた文学作品全般を視野に入れ、多様な文化的・文学的背景を考察します。英語コミュニケーション学では、人間のコミュニケーションの仕組みを理解するとともに、英語によるコミュニケーションの背景にある英語圏の文化や価値観について学びます。
また、これらの学びに関連して、言語学の基礎理論、英語と日本語の比較、さらには英語圏の文化・文学と日本の文化・文学との比較研究にも取り組みます。
本課程を履修することにより、英語、英語圏の文化・文学、英語コミュニケーションに関する高度な専門的知識と幅広い視野を身に付けることができます。
通信教育課程の大きな特長は、「いつでも」「どこからでも」学修できることです。さらに、Zoom を活用した双方向型授業や動画教材を通して、講師の表情や声が伝わる臨場感のある授業を受講することができます。時間や場所にとらわれることなく、充実した学修環境のもとで専門的な学びを深めることができます。

岐阜女子大学大学院の特色

- 男女問わず入学可能（大学院は性別不問）
- 社会人選抜試験あり（3 年以上の実務経験者向け）
- 短期大学卒業・専門学校卒業生等も入学可能
  （22 歳以上、事前の出願資格審査あり）
- 年に 2 回の入学時期（4 月・10 月）
- 通信教育課程は”いつでも”　”どこからでも”学修できる

新しい英語文化を創造する英語文化研究分野のカリキュラム

英語学特講Ⅰ	この科目では、翻訳という視点から言語学について考察していく。「ネイティブのように」英語を使いたい場合、何に注目すべきだろうか？ 伝えるべきことはきちんと伝えられているのか？ 言葉は単に文字通りの意味で理解しているだけなのか、それともさらに知るべきことがあるのか？ AI は助けになるのか、それとも妨げになるのか？本講座では、さまざまなトピックを取り上げ、翻訳が、その内容や表現の理解にどのような影響を与えているかを考察する。
英語学特講Ⅱ	現代では多様な文法理論が展開されているが、英語教育においては、伝統的な 5 文型の枠組みは現在でも重要な指導上の基盤となっている。本授業では、5 文型に加えて SVA・SVOA・SVCA 型を用いた英語構文の分析と指導法を学ぶ。さらに、A. S. Hornby の「25 の動詞型」を取り上げ、動詞型と構文指導との関連について考察する。
英語コミュニケーション学特講Ⅰ	この授業では、Oral Communicationに注目する。 Berlo の SMCR モデルを通して、オーラルコミュニケーションの様々な側面を見る。また、映画を利用して、スピーチのようなフォーマルコミュニケーションとディスクッションのようなインフォーマルコミュニケーションの違いを分析し、話者の役割を探る。
英語圏文学特講Ⅰ	この授業では、紀行文学の中の“identity”を探る。英米文学のみならず英連邦文学においてどのように及び何のために描かれているか、様々な作品を考察する。
文化学特講 ～日米文化の比較～	文化には、精神文化から生活文化まで、エリート文化から大衆文化まで多様な局面がある。それを類型化してしまうのでなく「生きた」相において動的に把握する。アメリカ及び日本の文化に焦点をあて、比較文化的な視点・視野を重んじ、英語文献などを読みながら具体的な検討をしていくことによって、創造的な文化研究に導く。
英語学演習Ⅰ	英語学習には、長年「常識」として語られてきた学習観が数多く存在する。本講義では、まずこれらの学習観の特徴を整理し、学習者の経験に基づくがゆえに説得力を持ちながらも、第二言語習得研究の観点から見ると必ずしも妥当ではない点を概観する。次に、「大量に聞けば自然に身につく」「文法は後回しでよい」「単語は丸暗記するしかない」といった代表的な学習観を取り上げ、第二言語習得研究の成果と照合しながらその妥当性を検討する。従来の学習観が抱える問題点を明らかにし、研究知見にもとづくより効果的で持続可能な学習観の構築を目指す。
英語コミュニケーション学演習	この授業は大きく二つのテーマに分かれる。前半では対話（Dialogue）を中心に扱い、後半にスピーチなどの Monologue を中心に扱う。Dialogue の中には映画を参考にしたものも含まれる。また、テレビのニュースや Shakespeare の演劇及び有名な政治家の演説などを参考にしながら個々のスピーチ術を高めるよう努める。
英語圏文学演習Ⅱ	児童文学には、小さな読者向けの絵本から中学生向けの冒険シリーズまで、幅広いテーマの本がある。この授業では、様々な作品を読み、構造を語り、Reading Aloud にも挑戦する。

科目の一部抜粋

多彩な講師陣

[教　授]

河原　俊昭

KAWAHARA
Toshiaki

言語政策、英語教育、外国人への言語サービス、観光英語を中心に研究している。グローバル化が進む現代において、英語は世界の人々にとってどのような意味を持つか、社会言語学や言語学の視点から考察していきたい。

[教　授]

山中　マーガレット

YAMANAKA
Margaret

英語コミュニケーション学（特にライティング）と紀行文学を中心に研究している。現在、旅行ガイドや旅日記におけるパラグラフ・ライティングの構造とスタイルやそれを指導する教材開発に着目している。

[准教授]

樋田　光代

TOIDA
Mitsuyo

小学校低学年から、中学校までの英語教育と小中連携の在り方をテーマとしている。現在は、言語材料の理解の促進と、それを基盤とした言語活動の充実、及び、発達段階に合わせた効果的な指導法について研究している。

通信教育課程の学修方法

通信教育課程の学修方法は、テキストを使った自宅学修（テキスト履修科目）と、テキスト履修とスクーリングの併用科目（テキスト・スクーリング履修科目）の２つの学修方法があります。

テキスト履修科目

テキスト学修 → レポート作成 → 科目修得試験 → 単位取得

教科書は各自で準備

１科目２課題

１科目：２単位

テキスト、e-Learning、参考文献による学修を自宅等で行います。
（レポート作成・科目修得試験も、自宅で行います。）

テキスト・スクーリング履修科目

テキスト学修 → 事前レポート → スクーリング → 事後レポート 科目修得試験 → 単位取得

教科書は各自で準備

１科目：２単位

スクーリングは大学等で直接授業を受けて頂きます。
スクーリングは科目によって、開催日数等が異なりますが、基本的には土日祝日に開講をしています。

大学院を修了するには

- ２年在学
- ３０単位取得【授業科目 13 科目（26 単位）・修士論文（4 単位）】
  （13 科目の中で英語文化研究分野の科目を 8 科目（16 単位）取得）
- 修士論文（研究活動）は必修科目

授業科目 13 科目 26 単位	＋	修士論文作成特別研究 （必修科目） 4 単位	＝	３０単位

◆ 出願手続き

インターネット出願になります。

【インターネット出願の流れ】

STEP❶ 出願に必要な書類などを準備 ▶ STEP❷ アカウント作成、出願登録を行う ▶ STEP❸ 写真データを登録 ▶ STEP❹ 入学検定料を支払う ▶ STEP❺ 出願書類を郵送する ▶ STEP❻ 受験票を印刷する ▶ STEP❼ 合否結果を照会する

【提出書類】

履歴書	本学ホームページからダウンロードした所定の用紙
成績証明書	出身大学所定のもの
卒業証明書又は 卒業見込証明書	出身大学所定のもの ※　大学評価・学位授与機構へ申請をした人は、学位授与証明書または学位授与申請受理書（大学評価・学位授与機構発行）を提出してください
修士論文作成研究計画書	本学ホームページからダウンロードした所定の用紙

※　入学検定料：30,000 円（振込手数料は個人負担）

※　短期大学・専門学校卒業の方は「出願資格事前審査の書類提出」が必要となります。
　　あらかじめ大学院入試室（TEL058-229-2211）にご連絡いただき、申請書類を提出してください。

※　詳細は本学ホームページにてご確認願います。

◆ 学　費

区　分	金　額	備　考
入学金	90,000 円	本学及び協定校の卒業生は，45,000 円
授業料	395,000 円 （年額）	授業料には，施設設備費，実験実習費及びスクーリング登録料を含む。 3 年目からは 80,000 円／年の在籍料のみ
その他 （杉の実会会費）	15,000 円 （2 年分一括）	

〈注〉学費については，在学中に改定することがあります。

岐阜女子大学・大学院

＜入試に関するお問い合わせ＞
大学院入試室
〒501-2592　岐阜市太郎丸 80 番地
電　　話　（058）229-2211（代）
ファックス　（058）229-2222
入試のお問い合わせ　0120-661184
（入試広報専用）

＜履修に関するお問い合わせ＞
通信教育事務室
〒500-8813　岐阜市明徳町 10 番地
杉山ビル 4 階
電　　話　（058）212-3257
ファックス　（058）212-3258
e-mail　tsushin@gijodai.ac.jp